

平成 29 年度倫理委員会（第一回定例会）の議事録

場所：日本技術士会九州本部会議室、

参加者：井内祥人、伊藤整一、稲垣浩通、小柳嗣雄、下津義博、末松典弘、西井康浩、藤橋健次、堀田源治、（新参加者）岩尾雄四郎（佐賀）、清水富夫（長崎）、佐藤光雄（大分）

【欠席者：勇秀忠（熊本）】

2017/06/17

概要

- (1) 新顧問および新委員の紹介
岩尾雄四郎氏（佐賀）、清水富夫氏（長崎）、佐藤光雄氏（大分）
- (2) 技術士綱領の研究・理解についての報告。（井内副委員長、小柳副委員長、下津委員）
- (2) 九州版倫理テキストの準備における倫理問題における「研究者倫理」（堀田委員）
- (4) 会務報告
- (5) その他（平成 28 年度活動報告書の印刷製本費用の見積もりなど）

1. タイムライン/スケジュール

29 年度第 2 回定例会は、9 月 3 日（日）13:30 時～17 時を予定。

九州版倫理テキストの準備における倫理問題から 4 テーマを予定。

2. 新委員の紹介

- ・岩尾雄四郎氏：日本地滑り学会で倫理綱領を作成経験。「社会システムと倫理」著作者。3 冊寄贈を受ける。
- ・清水富夫氏：機械設計のスペシャリスト（4000t 鉄鋼用から 1.5kg 金型まで 50 年経験）。
- ・佐藤光雄氏：8 年前に独立。大分大学で非常勤講師。倫理を事業のテーマに考えている。

3. 技術士綱領の研究・理解からについての発表

① 井内副委員長 13:30～14:15

「2. 持続可能性の確保」

「持続可能な社会の実現に貢献する」とする技術者の要件として、トランスサイエンスにも見識を持つ必要がある。

持続可能性には、言葉とタイムスパンの曖昧さがある。当面 50 年程度が予想できる範囲ではないだろうか。

「科学技術予想調査」では、3.11 以降、技術者に対する信頼が低下したと報告。持続性可能性を考えるためには、原子力発電は避けられない。原発問題はトランスサイエンスの領域であるが、技術者として見識を持つべきである。

トランスサイエンス領域は政治的な思惑が絡むため、注意が必要であるとの意見が出された。50 年と固定するだけでなく、数百年のスパンでの視点で見えてくる要因もあるとの意見が出された。

② 小柳副委員長 14:00～14:45

「5. 公正かつ誠実な履行」

技術士倫理綱領と 7 原則 9 義務のうち、誠実性原則と注意義務・忠実義務・情報開示義務に大きく関連性を持つ技術士倫理綱領の「公正かつ誠実な履行」の内容の理解を進める手助けとなると思われる法律的な視点が重要。利益相反の事態を回避するように努める と解説文では説明している。民法第 108 条は、自己契約及び双方代理として、利益相反を禁止している。また、士業のうち、弁護士法第 25 条、弁理士法第 31 条、社会保険労務士法第 22

条、司法書士法第 22 条にそれぞれ双方代理が禁止されている。しかし、技術士法では、利益相反行為禁止の条項はない。

③ 下津委員 15 : 00~15 : 45

「7.秘密の保持」

この秘密保持に関する最大のポイントは、綱領 1 との相反を生じた場合にどのように対応していくかである。

顧客からのデータ改竄要請などに対しては、毅然とした態度で処理を行い、返って信頼性を高めることが出来た経験もあった。しかし、公衆の利益と技術士が所属する組織の利益が相反する場合において、公益を最優先して秘密を公表した場合などは、個人の不利益が大きい場合もある。このような結果を招くことは、公衆の利益を維持していくことは、かえって困難になる。ケーススタディーを行い、事象の複雑性について議論した。

4. 九州版倫理テキストの準備における倫理問題

堀田委員 15 : 45~16 : 25

「人や組織上の問題」から「研究者倫理」

科学者に託した夢と信頼を裏切る事態が多く発生している。科学研究における誠実さがいっそう求められている。科学者が同時に複数の組織に属するために生じる新しい倫理問題が顕在化している。海外においては、倫理に関するガイドラインと不正に対応するための組織を設ける大学や研究機関が多くなっている。

研究者倫理は、下記の 2 点の観点から重要性が高まっている。①科学における不正行為は、人々の生活に重要な影響と人権を損なう ②人々が科学者に託した夢と信頼を裏切る。研究者に対する時代背景として、大学の法人化に伴う外部資金獲得の弊害や大型研究費獲得のための申請書への誇大表現など挙げられる。

倫理問題の事例として、超伝導のデータ偽装事件（ドイツ）、旧石器発掘捏造事件、ならび遺伝子スパイ事件などをあげることが出来る。倫理規程や行動規範の周知、健全なる科学ジャーナリストと科学評論家の育成は大切である。また、研究機関などに独立性の高い倫理委員会の設立の法制化などが考えられる。スタッフ細胞事件について、議論が行なわれた。研究組織としての問題、論文共著者の責任と倫理・行動規範、マスコミの対応（読者の興味のみ）などの問題を浮き彫りにすることが出来た。

5. 会務報告

次回以降の九州版倫理テキストの準備における倫理問題解説の担当者が、下記のように決定した。

各分野における倫理問題		担当	発表日
1. 人や組織上の問題			
	技術者倫理	小林, 佐藤	9月3日
	研究者倫理	堀田	6月17日
	企業倫理	伊藤, 末松	9月3日
	行政倫理	井内	9月3日
	公共倫理	稲垣, 藤橋	

2. 自然科学上の問題			
	生命倫理	外部講師（小柳対応）	
	環境倫理	下津	
3. システム上の問題			
	情報倫理	小柳	9月3日
	リスク倫理	西井, 清水	
	社会システム倫理	岩尾	

外部講師（熊本高専の小林先生）を招いた勉強会を次回行う。小林先生には堀田委員から事前交渉で了解を得た。

・今後の予定は下記に示す。

開催日	場 所	会議・行事の内容	参加数
H29.6.17	九州本部会議室	第1回定例会：①H29年度活動方針の確認、②「倫理綱領」研究の残り分の報告、③テキスト作成のための倫理問題報告その1、④次回課題（外部講師等）の確認	13名予定
H29.9.3	九州本部会議室	第2回定例会：①テキスト作成のための倫理問題報告その2、②次回課題（全国大会等）の確認	13名予定
H29.10.20	山口県健康づくりセンター	日本技術士会全国大会技術者倫理ワークショップ他参加	数名
H29.11	九州本部会議室	第3回定例会：①外部講師を交えた倫理問題研究、②全国大会参加報告、③テキスト作成のための倫理問題報告その3、④次回課題（年間成果等）の確認	13名予定
H30.2	九州本部会議室	第4回定例会：①年間活動成果の報告、②H30の活動方針の策定、③合格祝賀会における倫理報告	13名予定
H30.4	福岡商工会議所	合格祝賀会における技術士倫理講演への講師派遣	1名

倫理委員会の第2回定例会は、8月から9月3日へ変更。

技術士全国大会は、山口で開催であるため、倫理ワークショップへこの倫理委員会から数名の参加を予定。

平成30年度九州本部第1回CPD研修会（合格祝賀会）での倫理講習は、別途協議の上、講師を選任する。

6.その他

- ① H28年の倫理小委員会の活動成果を、報告書として製本を予定している。この印刷製本の費用の見積もりを九州本部へ提案し、予算化を検討していただく。

回覧および承認

上記に説明されているように議事録を承認します。

名前	役職	日付
井内 祥人	副委員長	6月27日, 承認
伊藤 整一	顧問	_____
稲垣 浩通	委員	_____
小柳 嗣雄	副委員長	6月25日, 承認
下津 義博	委員	_____
末松 正典	委員	_____
西井 康浩	委員長	6月25日, 承認
堀田 源治	委員	_____
藤橋 健次	委員	_____
岩尾 雄四郎	顧問	_____
清水 富雄	委員	_____
佐藤 光雄	委員	_____
勇 秀忠	委員	_____

承認者

日付

承認者

日付